



2024年11月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111(内線 208)

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。 QRコード→



教育推進課の取組 「おやそだちコラム」を各校の学校便りへ



多治見市教育委員会学校教育推進課 発 「おやそだちコラム」

このQRコードから
ご覧いただけます



多治見市は「親育ち4363たじみプラン」を推進しています。それを受け、多治見市教育委員会教育推進課では、「おやそだちコラム」を多治見市内各小中学校21校へ寄稿しています。それを受けて、それぞれの小学校、中学校は「学校便り」に掲載します。つまり、毎月の学校からのお便りで「おやそだちコラム」を読むことができます。

この取り組みは、すでに10年以上続いており、多治見地区の小中学生をもつすべての保護者がこのコラムを目にすることができます。県で推進している家庭教育支援のアウトリーチ的なアプローチにもつながる取り組みです。多治見市子育て情報 official (フェイスブック)、きずなネットにも掲載され、一般の方も読むことができるようになってきました。【右のQRコード→きずなネット→「多治見市から」】

今回は、9月、10月号に掲載された内容を紹介します。「9月1日は、18歳以下の自死の数が一番多い」ことを念頭においたコラムです。ぜひ、他地区の小中学生をお子さんにもつ保護者の方にもご一読いただければと思います。(このシリーズは11月号までの3回で完結)



<令和6年度9月学校便り掲載>

相談してみよう 少しずつでも、きっと何かが変わるから 1

親育ち4363たじみプラン事務局

夏休みが終わりました。毎年、この時期には子どもの心の不安が話題になります。

「つらいときにはいつでも相談するんだよ。いつでもどこでも待っているよ」

子どもたちの心を守るために、日常的に、とりわけ夏休みなど、長期休業の前後には、日本中のすべての学校で、教室で、子どもたちに、シャワーのように伝えられている言葉だと思えます。

「令和2年度不登校児童生徒の実態調査」(文部科学省)の中で「休みたいと感じ始めてから実際に休み始めるまでの間に相談した相手」が問われています。「家族」と回答した子が小学校で53.4%、中学校で45.0%と、共に高い割合でした。一方で、「誰にも相談しなかった」割合が小学校で35.9%、中学校では41.7%と、共にこの設問では二番目の高さです。

私たちは、両腕を大きく広げて待ち受けています。しかし、「つらさや悩みを誰かに相談する」ということは、私たちが思う以上に、子どもたちにとってはハードルが高いようです。このことは、私たちに何を示唆しているのでしょうか。(教育推進課 家庭教育担当)

<令和6年度10月学校便り掲載>

相談してみよう 少しずつでも、きっと何かが変わるから 2

親育ち4363たじみプラン事務局

私たちが「悩みを相談する」と決心するとき、心の内にはどんな思いがあるのでしょうか。

一つは「誰かに相談することは前に進むための行動だ」という認識です。しかし、これは全ての人が持ち得ている思いではありません。大人であれ、子どもであれ「誰かに頼るのは自分が弱い証拠。だから相談などしない」と思う人もいます。

もう一つは「相談することは自分にとっていいこと」という認識があるか、それを想像できることです。「この人に話を聞いてもらえば方向が見えるかもしれない」「少なくとも気は楽になるだろう」など、相談が自分にプラスに作用するという期待です。これにも「誰かに相談して、ことが動くと、かえって面倒になる」と、経験の有無に関わらず、相談することの、「マイナスの効果」を心に刷り込まれている人もいます。

「そうだね。相談することにも勇気があるよね」「そういうこともあるかもしれないね。でも、何かは変わっていくかもしれないよ」。相談をいやがる気持ちも大切に受け止めつつ、「相談を受け止める」メッセージと並行して、子どもたちの「相談する力」を育てる。

先のデータは、その営みの必要性を、私たちに語りかけているように思えます。

(教育推進課 家庭教育担当)

中津川市子育てマイスター養成講座

第7回 望ましいサポーター

日時 令和6年10月7日(月) 10:00~12:00
 講師 嶋倉 伸蔵 さん 社会教育指導員
 参加者 受講者29名 中津川市生涯学習スポーツ課2名
 会場 中津川市ひと・まちテラス 101活動室



会の始まりは手遊び歌の練習から



受講者の真剣な学び、サロン型でさらに深まる

中津川市が子育てマイスター養成講座を開催して、今年で16年目になります。参加者は年間12回の講座を受講すると中津川市長から認定証が授与されます。こうして、学ばれた方が、子育て関連の分野で活躍をされています。本日の講座の託児でその役割を担ったり、家庭教育支援チーム「すくすくわくわくまあるいこころ」で活動されたりされています。中には市の家庭教育指導員として、中津川市の家庭教育推進の重要な担い手となって後進の育成を担当してみえる方もいらっしゃいます。

今年度の受講者は29名、本日が第7回目の講座となりました。本日の講座は「望ましいサポーター」をテーマに嶋倉伸蔵社会教育指導員(前東濃地区家庭教育推進専門職)が講座を担当されました。



サロン型で自分の考えをアウトプット、他者の考えをインプット

本日の講座内容

- アイスブレイク バースデーチェーンを作ろう
- グループ編成(4人で1つのグループに再編)
- サロン型を体験しよう
- 1 なぜ、絵本か?
- 2 なぜ、乳幼児学級か?
- 3 なぜ、ほめるのか?...自尊感情の話
- 4 リフレーミングしてみよう
- 5 障がいと特別支援学級について

【養成講座を受講された方の受講動機を紹介します】

子育てについて学びたい: 友だちにさそわれました。今は二人の子育て真っ最中です。自分の自由な時間がなかなか取れず、子育てについて学ぶ時間がありません。託児もあるので、子どもをあずけて、子育てについて学ぶことができます。ありがとうございます。

リピートしたくなる学び: 実は昨年度も受講しました。一年間受講して、とてもよかったので、今年も受講しています。各講座が魅力的です。自分の学びになります。今年も迷わず申し込みました。

幅広い方々への対応のため: 民生児童委員をやっています。自分の子育ては、終わりましたが、立場上いろいろな方とふれあうこともあり、対応、見識の幅を広げるために受講しています。受講してよかったのは、「孫育て」にも大いに役立っているところです。

保護者の力になりたいくて: 自分の子育てで、とてもお世話になり、支えていただきました。今度は自分が子育てで悩んでいる保護者の相談に乗って少しでも力になればと思って受講しています。

【ここを学びたい】

・**受講生の学ぶ意識の高さ、受講後の活躍** 受講動機にあるように、みなさん一人一人が志をもち、真摯に学んでみえるところが素敵です。空気が澄んでいるような感覚に陥りました。受講を終えた後、乳幼児学級など、子育ての様々な場面で活躍される姿が目に見え、浮かぶようでした。受講後の出口がしっかりしているところも中津川市の取組のすばらしさです。



土岐市立駄知小学校附属幼稚園 家庭教育学級

「読み聞かせ」と「ぴっかりこ」の取組(家庭との連携)

日時 令和6年10月16日(水) 14:00~
 参加者 3クラス(うさぎ、りす、きりん組の園児)
 読み手 保護者(家庭教育委員会が募集)



年間9回の読み聞かせ 子どもたちの成長を感じながら



(年少)うさぎ組の読み聞かせの様子



(年中)りす組の読み聞かせの様子



(年長)きりん組の読み聞かせの様子

駄知小学校附属幼稚園では、年間を通して、園の行事と連携する形で家庭教育学級を進めています。「読み聞かせ」もその一環です。年間を通して保護者による「読み聞かせ」の場が設定されていて、今回10月の「読み聞かせ」を参観させていただきました。

園児が、絵本を読んでくれるおうちの方を案内するために別室に緊張した面持ちで向かっている姿にも出会えました。どの子どもこの時間を楽しみにしていることが伝わってきました。子どもたちは「読み聞かせ」に集中していました。

【読み聞かせをされた保護者の方にお話を聞きました】

「今年は『読み聞かせ』2回目、通算では5年目になります。私は読み聞かせは、あまり上手ではないのですが、園児の人数も少なくなり、自分の子どもに読み聞かせるような感覚で行っています。家でもなかなかゆっくり本を読んでやれないので、こういう機会があって助かっています。」

(本はどうやって選びましたか?の問いかけに)

「今日は、3冊読んだのですが、もうすぐ遠足があるので、遠足の本、そして、運動会で食べるものも意識してほしかったので、食べ物の本、そして、少しむずかしいのですが、これから出会うであろうお金についての本を選びました。難しい内容があるところでも、しっかり反応があって、子どもたちの成長を感じました。」

園の行事や子どもの発達に合わせて絵本を選んでみえます

育てたい姿を「ぴっかりこ」と具体化し、家庭と連携

保護者様

「ぴっかりこみつけ」のご案内

「ぴっかりこみつけ」のお願について

本日、配布しました「ぴっかりこみつけ」の袋に、3枚の「ぴっかりこカード」が入っています。お忙しいとは思いますが、お子さんの「ぴっかりこ」な姿を見つけていただき、7月1日(月)までに、担任へ「ぴっかりこカード」を袋に入れて返却ください。ご協力の程、よろしくお願いたします。



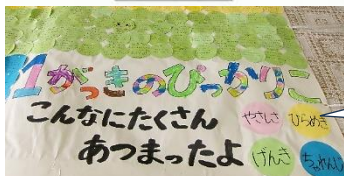
お子さんの名前

【ぴっかりこカードの裏面】

お子さんの名前

ぴっかりこな姿

書いた人



一学期のぴっかりこ 掲示物

「ぴっかりこ」の取組について伊藤園長にお話を伺いました。

「4月に園で育てたい子の姿を具体的に職員と話し合いました。その姿を4つの『ぴっかりこ』(げんき、やさしさ、ちゃれんじ、ひらめき)としてまとめ、職員も保護者も子どものよい姿を見つける取組を年間通して行っています。今は、運動会の取組で見られた子どもの良さを家庭と園で『ぴっかりこカード』を通じて共有しています。」

教室にもカードが掲示されていて、園の経営方針が「見える化」されていました。みんなが意識できる工夫がありました。

【ここを学びたい】

- ・育てたい子の姿を保護者と共有する
- 子どものよい姿を園と家庭で見つけて共有する取組は、まさに、保護者、職員が協力して子どもたちの成長を喜び合える活動です。

池田町立宮地小学校 家庭教育学級

命の授業

「講演会型」+「在宅取組型」

令和6年9月3日(火)

9:15~10:00 1, 3, 4年生親子

10:20~11:05 2, 5, 6年生親子



<他地区の家庭教育学級の紹介>

西濃地区の家庭教育通信で紹介された家庭教育学級の実践事例です。県内各地で「命の教育」が重視され、実践されています。

「赤ちゃんってどうやってできるの?」このような質問に、みなさんならどのように答えられますか? 子供たちの成長に「性」は切り離せません。何歳にどのタイミングでどのようなことを伝えていけばよいのか、悩むことがありますよね。そこでこの度、宮地小家庭教育学級では助産師さんにお越しいただき、各学年の発達段階に応じた「命の授業」を開催することとなりました。下記に詳細を載せましたので、お忙しいとは存じますが、是非ご参観くださいますと幸いです。尚、「命の授業」はフリー参観形式で行いますので、お子さんのクラス以外の授業をご覧になっても構いません。

- 1 期 日 令和6年9月3日(火)
※助産師さんの都合で17日(火)になることがあります(変更の場合はすぐ一でお知らせします)
- 2 時 間 第2校時(9:15~10:00)1年生・3年生(2・3年教室)・4年生
第3校時(10:20~11:05)2年生(2・3年教室)・5年生・6年生
- 3 場 所 各学年の教室
- 4 内 容 1年生「からだをたいせつに」プライベートゾーンについて学びます
2年生「おへそのはなし」へその緒の役割について学びます
3年生「赤ちゃんの誕生」どのように赤ちゃんが生まれるのか学びます
4年生「思春期のからだの変化」身体と気持ちの変化について学びます
5年生「あなたが生まれてきた奇跡」妊娠中の家族の気持ちについて学びます
6年生「いのちってすごい!」一人一人の生命力の素晴らしさを学びます
- 5 お 願 い 子供たちは授業中、学んだことをワークシートに書きます。家に持ち帰り、学んだことを話します。是非、聞いてあげてください。そして生まれた時のエピソードやご家族の思いをお伝えください。そしてワークシートへ、一言コメントもしくはサインをお願いします。提出日は9月13日(金)です。予備日に授業が延期された場合は、9月30日(月)です。よろしくお願いたします。
- 6 その他(学校より)
・家庭教育学級開催に合わせて、夏休作品展を開催します。場所は各階のワークスペースです。工作等の作品には原則触らないようにお願いします。研究等のファイルやノートはページを開いてご覧ください。
9月3日(火) 9:15~11:00 **職員玄関または児童玄関の受付名簿に○を付けてください。**
9月4日(水) 8:00~9:00
・大垣ケーブルテレビの録画を図書室にて放映します。各回、3回流します。
9月3日(火) 1回目 9:00~9:10
2回目 10:05~10:15

5人の助産師さんによる

発達段階に応じた命の授業

おなかに赤ちゃんがいる保護者の方が、神戸町で「命の授業」が開催されていることを知り、宮地小学校でも行いたいと考えられました。その思いは、今年度の家庭教育学級長さんに引き継がれ、岐阜県助産師会から5名の助産師の派遣を得て、学年ごとに開催されました。

この授業は、保護者のフリー参観形式で行われました。ケーブルテレビや他市の教育委員会の方が訪問するほど関心が集まりました。

子どもたちが授業の最後に学んだことを書いたワークシートを家に持ち帰り、家族に話します。家族はその子が生まれたときのエピソードや思いを伝え、ワークシートにメッセージを残します。

自分がどのように生まれてきたのかを学ぶことで、自分の命はかけがえのないものであることを自覚する大切な時間となりました。



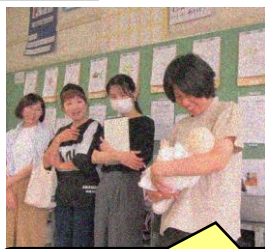
4年生は、思春期のからだの変化について学びました。



赤ちゃんはどのように生まれてくるのかな。



赤ちゃんって、小さくてやわらかい!



こんなに小さかったのね。



赤ちゃんがおなかにいると大変だね。



6年生の保護者には、我が子が生まれた時の様子や気持ちを手紙に書いてもらい、授業の最後にサプライズで子どもたちに渡しました。



6年生 針で穴をあけた画用紙をのぞき、受精卵の大きさを実感します。

こんなに小さな卵がおなかの中で赤ちゃんになるって信じられない!いのちってすごい!

子どもたちの学びと保護者の学びを同時に

学校の授業として子どもたちは学び、フリー参観で保護者も学びます。授業参観に参加できない保護者も、子どもたちがワークシートを持ち帰って話をする中で学ぶことができます。学校と保護者との協力によりこの素晴らしい取組が生まれました。

◇ 飛騨市立古川中学校 講演会型 家族の大切さ 命に大切さ 基本的な生活習慣

○ 期日:令和6年7月3日 19:00~20:30 ○ 会場:飛騨市立古川中学校 体育館

○ 演題:「うちの思春期」をおうちでもっと元気にするワザ ○ 講師:小児科医・精神科医

<他地区の家庭教育学級の紹介>
飛騨地区の家庭教育通信で紹介された家庭教育学級の実践事例です。県内各地で「家族を大切にする、命を大切にする」ことが重視され、実践されています。

お知らせいたします。

記

日時 令和6年7月3日 水曜日
時間 19時~20時 30分
場所 古川中学校体育館 2階 受付12番
講師 須田麻院 飯下 和英 医師
演題 「うちの思春期」をおうちでもっと元気にするワザ

※5月19日締め切りで出欠アンケートをとらせていただきましたが、「出席」に回答されなかった方でも、参加は可能です。当日会場にお越しください。たくさんの方のご参加お待ちしております。



飛騨市では、思春期の子どもの健康向上を目指し、専門医による「飛騨市思春期健診」の試行が始まりました。この健診には「親子で健康について話したり家族みんなで健康になる工夫を考えたりするきっかけとなってほしい。」という願いが込められています。

校長先生曰く「子どもたちを真ん中において、一人の子どもに関わる大人が増えています。医療に関わる専門職の方が子どもに関わっていただけることは、大変嬉しいです。子どもたちをチームとして育むことの大切さを痛感しています。」

地域の方々と連携し、子どもたちの居場所が増えることはすばらしいことです。子育て研修委員会の皆さんが企画した講演会(家庭教育学級)には、たくさんの方々が参加されました。

<事前アンケート>

- ・思春期の子への接し方、どこまで踏み込めばよいか悩みます。
- ・子どもが親に辛いことや心配なことを言いやすいようにするには、ふだんからどのように接するとよいのか教えてください。

講演:「うちの思春期」をおうちでもっと元気にする ワザ

- その1 発達(思春期の時期)を知る
- その2 健やかな生活習慣を知る
- その3 接し方を知る
- その4 自分の課題を知る
- その5 自分の仕事を知る(親の仕事=子を愛すること)



<教育×医療で 子どもたちを支える>

Q(役員) 本校では、レジリエンスカ(立ち直り力、回復力)を大切にしています。レジリエンスカを育むにはどんなことが大切でしょうか。

A(講師) 人間関係の中で、いかに助けを求める力を育むかという点が大切だと思います。助けを求めることによって元に戻れたという感覚、また自分には長所ばかりではなく短所もあるけれど、〇〇したらできたよ! という感覚を増やしていくことが大切だと思います。

PTA 会長さんが、お礼の挨拶の中で「子どもたちは思春期の中で成長しているので、親も一緒になって成長していくことの大切さを感じました。子どものレジリエンスカを支えられる親であるよう努めたいです。」と話されました。

<感想>

- ・わが子みな思春期真っ只中にいますが、思春期の子どもへの接し方はあまり考えてなかったなと思いました。これからできそうなことがたくさんあるので、上から目線ではなく同じ目線で過ごしていけたらと思います。
- ・助けを求めることが大事だと思いました。けれど、助けを求めること=人に迷惑をかけてしまうことと思っています。上手に助けを求める方法が知りたいです。
- ・私は、講師の方が話された「無意識に発している言葉」をすべて言っていて、笑ってしまいました。いつもわが子と喧嘩になる原因がなるほどなあと、よくわかりました。

<家庭教育ミニ情報>

岐阜県健康福祉部子ども・女性局子ども家庭課からの情報提供です。令和6年度「清流の国ぎふ、オレンジリボン 児童虐待防止講演会」が動画共有サービス（YouTube の限定公開）により視聴できます。

タイトルは、「知っていますか？マルトリートメント ～子どもの脳とこころを傷つけない子育て～」で、講師は、友田明美氏（福井大学 子どものこころの発達研究センター教授）です。

YouTube限定公開

清流の国ぎふ オレンジリボン 児童虐待防止講演会

知っていますか？ マルトリートメント

～子どもの脳とこころを傷つけない子育て～

(児童虐待防止地域協力員研修・家庭支援技術向上研修)

このチラシは、恵那、東濃県事務所、子ども相談センター、各市担当課にあります。

講師 友田 明美氏
(福井大学 子どものこころの発達研究センター 教授)

プロフィール
福井大学医学部卒業。1990年、同大学附属病院産科小児科勤務。2003年～2005年、米マサチューセッツ州の病院に留学、ハーバード大学医学部精神科学教室客員助教授。
2006年、同本大学大学院准教授を経て2011年から現職。著書に「顔の影を落とせば子どもの脳は変わる」(NHK出版)など、日本テレビ「世界一受けたい授業」、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」、「クローズアップ現代+」など、メディアにも多数取り上げられている。

公開期間 令和6年 11月 1日(金) 10:00から
令和6年 11月30日(土) 17:00まで

主催 岐阜県 **参加費** 無料 **どなたでも参加いただけます**

・講演会の視聴には事前申し込みが必要です。
・講演(動画)は60分程度を予定しています。
・YouTubeの視聴にかかる通信料等は視聴者様のご負担となります。

これは、児童虐待防止地域協力員研修・家庭支援技術向上研修の一環として実施されるものです。

YouTube 講演会視聴のメリット

○チャプター機能を有効活用!
「一気に集中」「2回に分けて」「スキマ時間に1パートずつ」など自分の好みの視聴方法が選べます。

○ワークでは動画を止めてじっくり考えてみましょう。メモを取りたいときも便利です。

○一度聞いてもわからなかった部分は繰り返し聴くことができます。

○お急ぎの場合は再生速度を上げるという裏技も!

申し込みについて

・無料でどなたでも参加いただけます。

・講演会の視聴には、事前申し込みが必要です。

・講演(動画)は60分程度を予定しています。

・YouTubeの視聴にかかわる通信料等は視聴者様のご負担となります。

興味と関心のある方は、ぜひご覧ください。

申込方法

- 講演会の受講には事前申し込みが必要です。
- 注意事項をよくお読みのうえ、以下のWEBフォームよりお申し込みください。
- 申込完了後、自動返信にて「受講者専用ページ」のURLをお送りします。
- 公開期間中に「受講者専用ページ」に講演動画及び資料を掲載します。

申し込み
はこちら



または岐阜県ホームページ内にて

オレンジリボン

検索



申込期限

令和6年 11月29日(金) 17:00まで